

業連だより

5月8日、業務連絡会議が開かれた。

冒頭、深山副理事長が、「連休明けでお疲れかと思いますが、気分新たに議論をお願いしたい。今日のテーマは非常に大切であります。内閣府に提出する資料であり、公益法人としての存立に係わるものであります。積極的な意見を頂きたい」と挨拶された。

続いて小柳専務理事の進行で、協議事項に移り、「平成29年度偕行社事業報告書(案)」について廣瀬総務委員長から、「平成29年度偕行社計算書類(案)」について林財務委員から、それぞれ説明があり、審議の結果、一部修正の上、理事会に諮ることになった。

次いで報告事項に入り、白石副理事長から「将来検討委員会の検討状況」について、「前回の業務連絡会議で、会員区分を一本化する方向だと説明しました。しかし、改めて現状を分析する中で、早急な結論を出すことに慎重な意見が出され、当面現状を維持し、更に検討を深めることになった」と説明がなされた。

事務局長から「平成30年度各地偕行会支援金」について、慰霊顕彰費、助成金、自衛隊協力費として、総額

320万円が計画されているとの報告があった。これについて、「財政状況が悪い中で、何を重点に支援するべきか検討すべきである」との意見が出され、将来検討の中で検討項目として議論することとなった。

また、偕行社会長から元熊本偕行会会長の美作博様(陸士60)に感謝状が贈呈されることが報告された。

各委員長報告では、熊谷慰霊援護委員長が、「4月29日に世田谷山観音堂で裏千家第25代家元、千玄室大宗匠主催の特攻隊全戦没者に対する献茶の会が開催された。深山副理事長と共に参加した」と報告された。

林財務委員長からは、資産運用について、「継続的な赤字運営の中、資産の減少による運用益の減少が予測されるため、今後より赤字額が増加する可能性がある」との説明があった。

最後に人事手続きについて予定が提示された。「評議員、理事及び監事」は、次回の理事会(5月24日)で推薦され、評議員会(6月9日)で選任される。

また評議員会直後に開催される臨時理事会において、理事長、副理事長及び専務理事を互選により選出する。

(新役員人事については、「偕行」7月号で報告予定)